

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

平成29年2月1日

協議会名:岩見沢市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内バス路線の再編案の検討 ・利用促進案の検討 ・実証運行 ・交通事業者協議 ・地域公共交通再編実施計画の検討 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編実施計画等の検討についての交通事業者との協議が長期化し、重複路線の解消、利用頻度に沿った路線統合等による路線再編案を協議会において話し合う時期が遅れた。 ・路線再編により新たなルートとなる地域のニーズ把握が十分でなく、当該地域における路線再編後の効果に疑問が残るため、交通空白地域における実証運行よりも優先的に当該地域のニーズ調査を実施することに変更。 ・路線再編案、ニーズ調査を基に、ルート、ダイヤについて住民と協議し、今後の協議会の検討を経て、NW計画として最終的にとりまとめる。 	<p>B</p> <p>再編実施計画等の検討についての交通事業者との協議が長期化し、協議会における協議の実施が遅れるなど、当初予定のスケジュール通りに進まなかったものがある。</p> <p>また、再編実施の核となるバス路線再編を優先する必要性から、交通空白地域における実証運行を取りやめ、新たなルートに対するニーズ調査の実施に変更。</p>	<p>既策定の地域公共交通網形成計画に基づき、平成29年度に再編実施計画を策定し、速やかに地域公共交通の核となるバス路線の再編を実施する。</p> <p>また、交通空白地域における新たな公共交通についての方向性、路線再編後のバス利用の促進策についても再編実施計画において定める。</p> <p>なお、計画推進(バスマップ作成)にあたり、地域公共交通調査事業(計画推進事業)に申請したいと考えている。</p>

岩見沢市地域公共交通活性化協議会

平成27年1月26日設置



概要

岩見沢市は北海道の中西部に位置する、空知管内の中心都市であり、人口は83,942人(平成28年12月末現在)、総面積は481.02km²で、市域の西部には平野が広がり、東部には低山性の山々が連なっている。市の中央を高速自動車道が通っており、札幌市まで車で約45分、新千歳空港を有する千歳市まで約60分の圏域であり、また札幌市と旭川市を結ぶ国道12号が市内を通過している。平成18年に、隣接する北村、栗沢町と編入合併し、農村地域を多く有することとなった。

バス停勢力圏の人口は約50,000人で、市街地は公共交通網が形成されているが、郊外地域においては公共交通の空白地域が存在する。また、人口減少や少子高齢化、自家用車の普及などにより路線バスの利用者の減少が続いており、路線バスの維持確保のための自治体負担も増加している。今後、さらなる高齢化の進行等により、自家用車から公共交通へ転換する高齢者の増加が見込まれるため、公共交通による移動手段の確保が重要であり、今後の公共交通の基本方針として平成27年4月に「岩見沢市生活交通ビジョン」を、マスタープランとして平成28年6月に「岩見沢市地域公共交通網形成計画」を策定した。これに基づき、バス路線の具体的な再編方針や公共交通の利便性の向上、交通空白地域における方向性を定める「地域公共交通再編実施計画」を策定するため、本調査事業を実施するものである。

○地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(岩見沢駅、上幌向駅、幌向駅)
- ・JR室蘭線(岩見沢駅、志文駅、栗沢駅、栗丘駅)
- ・空知中央バス(株)(市内10路線、郊外線9路線)
- ・(有)新篠津交通(郊外線1路線)
- ・市営バス(栗沢地区:2路線)
- ・混乗スクールバス(北村地区6路線)

○地域公共交通の課題

- ・人口減少や少子高齢化、自家用車の普及などによる利用者の減少
- ・ルート・ダイヤの再編、利便性の向上による利用促進策
- ・郊外地域を中心とした、交通空白地域の存在
- ・高齢化のさらなる進行等による、高齢者の移動交通手段の確保

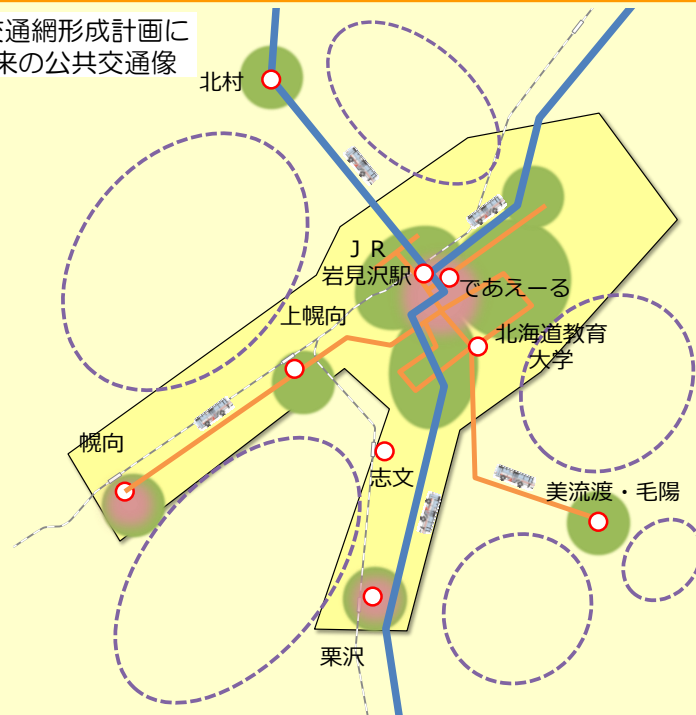
○事業の主な内容

- ・市内路線バスの再編の検討
- ・郊外部と市街地における新たな交通網の検討
- ・公共交通の利用促進の検討
- ・地域公共交通再編実施計画の検討
- ・協議会開催

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 1月31日 第1回協議会開催
- ・路線・ダイヤについて
 - ・ヒアリング調査について
 - ・事業評価について

地域公共交通網形成計画に定める将来の公共交通像



凡例	
○ 交通拠点	— 鉄道
— 幹線路線バス	● 都市機能が集積した都市の拠点
— 広域路線バス	● 居住機能が集積した暮らしの場
○ 新たな公共交通検討地域	■ 都市計画区域

岩見沢市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

- ・再編実施計画等の検討についての交通事業者との協議が長期化し、重複路線の解消、利用頻度に沿った路線統合等による路線再編案を協議会において話し合う時期が遅れた。
- ・路線再編により新たなルートとなる地域のニーズ把握が十分でなく、当該地域における路線再編後の効果に疑問が残るため、交通空白地域における実証運行よりも優先的に当該地域のニーズ調査を実施することに変更。
- ・路線再編案、ニーズ調査を基に、ルート、ダイヤについて住民と協議し、今後の協議会の検討を経て、NW計画として最終的にとりまとめる。

●事業実施の適切性

再編実施計画等の検討についての交通事業者との協議が長期化し、協議会における協議の実施が遅れるなど、当初予定のスケジュール通りに進まなかったものがある。

また、再編実施の核となるバス路線再編を優先する必要性から、交通空白地域における実証運行を取りやめ、新たなルートに対するニーズ調査の実施に変更。

●地域公共交通再編実施計画の計画策定に向けた方針

既策定の地域公共交通網形成計画に基づき、平成29年度に再編実施計画を策定し、速やかに地域公共交通の核となるバス路線の再編を実施する。また、交通空白地域における新たな公共交通についての方向性、路線再編後のバス利用の促進策についても再編実施計画において定める。なお、計画推進(バスマップ作成)にあたり、地域公共交通調査事業(計画推進事業)に申請したいと考えている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄